



港区芝浦港南地区総合支所
SKDs未来の担い手育成プロジェクト



水辺のまちづくりワーキング

ACTIVITY REPORT

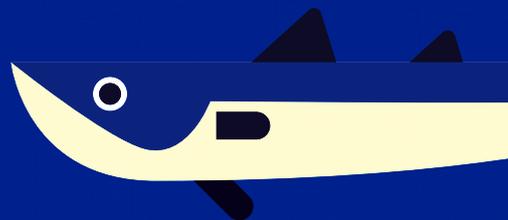
「SKDs未来の担い手育成プロジェクト」は、
若年層の方を対象に企業や大学等と連携し、
地域を知り、地域で活動するためのボランティア
及び地域活動への参加意識を高めるプロジェクトです。
本誌では、東京科学大学附属科学技術高校の生徒が
取り組んだ成果をご紹介します。
高校生がまちを歩き、地域の魅力を見つめ直し、
自分たちの視点で“芝浦港南地区の未来”を描きました。
参加していただいた高校生はもちろん、
本誌を手にとっていただいた皆様が、
地域活動へ一歩踏み出すきっかけとなれば幸いです。

港区芝浦港南地区総合支所 協働推進課

高校生が芝浦港南地区の

／A／を使って／

未来を描きました



SKDsとは?

S 芝浦

K 海岸2・3丁目、港南

D 台場

S Sustainable (持続可能な)

芝浦港南地区では、住民同士のつながりが薄くなってきたことや、地域を支えてきた方々の高齢化などにより、子育て支援や高齢者支援、防災などの地域活動をどう育てていくかが大きなテーマになっています。こうした中、地域がより持続的に発展していくことを目指して令和3(2021)年度から始まったのが「SKDs未来の担い手育成プロジェクト」です。若い世代が地域で活躍できる場を広げ、地域の活性化を図るとともに、将来的には参加した皆さんが地域活動を担う存在として活躍されることを期待しています。

高校生プログラムのこれまでの取組

「SKDs未来の担い手育成プロジェクト」の高校生と協働した港区の地域事業は、今年で5年目、3回目のプログラムとなります。



プログラムの参加校
東京科学大学附属
科学技術高等学校

高校生プログラムは、東京科学大学附属科学技術高等学校の1・2年生とともに活動しています。

令和3~5年度

SDGs
アクションブック
を制作



高校生が地域の企業や団体にSDGsに関する取組を取材し、記事を作成。3年分の取組を1冊にまとめました。

令和6年度

Photo
Collection
~高校生が見つけた芝浦港南の魅力~
を制作



高校生の目から見た芝浦港南地区の魅力を紹介するフォトブックを制作しました。

令和7年度

水辺の
まちづくり
ワーキング
を実施

本誌にて
活動レポートを
お届けします!

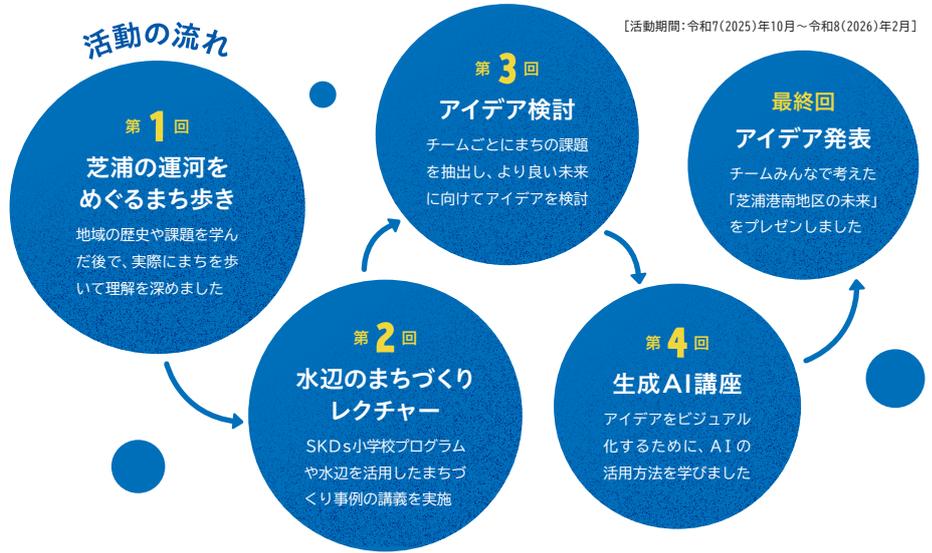
SKDs高校生プログラム 水辺のまちづくり ワーキング 活動レポート

「本校の1年生の有志生徒が運河沿いのまちを歩き、地域の魅力や課題を自分の目で見つけて言葉やアイデアにまとめる活動を行いました。生成AIでイメージ画像をつくる過程では、試行錯誤を重ねる姿が特に印象に残っています。体験から問いを立てて形にしていく力は、今後の多様な学びへつながっていくと感じています」

東京科学大学附属科学技術高等学校
北原 裕子 先生



活動の流れ



[活動期間:令和7(2025)年10月~令和8(2026)年2月]

チーム紹介

参加したのは、全3チーム・10名の1年生です。
ここでは参加した感想とともに、メンバーをご紹介します。

*高校生も先生も、プロフィール画像はAIを使って自ら作成しました!

チーム:
Canademy

「carasumi(からすみ)×canal(運河)×academy」。
芝浦運河のボラ(からすみ)でまちを
より良くしようと取り組むチームです。



土井 日向恵
HINAE DOI

CODE NAME
現役カイワレアイコン

私は陸上部で、毎日、前だけを見て走っています。でも、芝浦はビルに光が反射するのがきれいで、見上げて歩くのが楽しいまちでした。一方で、昔ながらの趣ある建物も残っていて、このまちが好きになりました。



千葉 章太郎
SHOTARO CHIBA

CODE NAME
動画解析班・(1人)班長

以前住んでいた皇居の近くは自然が豊かでしたが、都市と生活のエリアが分かれていました。でも、芝浦はビルと住宅が隣り合わせで、まちに一体感があります。身近にある水辺ももっと活用できると思います。



岡谷 龍之介
RYUNOSUKE OKAYA

CODE NAME
気泡緩衝材測定員

初めて歩いた芝浦のまちは思いのほかが人が少なく、田町駅周辺のぎわいの大きなギャップを感じました。でも、新浜公園やHi-NODEにつながる橋のライトアップなど、強く心に残っている場所もあります。



吉田 理緒
RIO YOSHIDA

CODE NAME
sleeping master

今回参加して、私の地元と芝浦では水辺の役割が違うことに気づきました。「水辺のまちづくり」は、地域の特性に合わせて取り組む必要があるんですね。あと、運河の水生生物に目を向ける人が増えるといいな……。

チーム:
つながり隊

水辺で
コミュニケーションを
とりたい人とつながりたい!



古川 海来
MIRAI FURUKAWA

芝浦は、自分が住んでいる街とは何かも違います。Hi-NODEから見た、周囲を高いビルに囲まれた水辺の風景はいいあって思いました。



齋藤 美咲
MISAKI SAITO

ガラス張りのビルって、街の風景を映し出す鏡みたいで好きなんです。夕暮れ時のBLUE FRONT SHIBAURAの外壁は本当にものすごくきれいでした。



下城 啓
KEITO SHIMOJO

不思議な形の重箱堀や、光と音楽が出る遊具のある新浜公園が面白いと思いました。芝浦には芝浦ならではの景色があって、楽しかったです。

チーム:
しずくトリオ

小さな3つのしずくから
芝浦の大きな水辺を
変えていきます。



田口 茉奈
MANA TAGUCHI

芝浦はオフィス街というイメージでしたが、スーパーや公園などがあり、生活の香りがしました。学校のすぐ近くなのに、全然知りませんでした。



星 穂乃佳
HONOKA HOSHI

まちづくりのスペシャリスト・中村さんにも同行していただき、発見や学びの多いまち歩きとなりました。印象的だった場所は、伝統文化交流館です。



表 菜々
NANA OMOTE

公園やビルの一画など、まちのどこどこにくりつろげるスペースがあるのが意外でした。あと今回参加して、AIの便利さを再発見しました。

各チームの
アイデア
発表!

生成AIを使って

高校生が 芝浦港南地区の未来を 描きました

外部からアドバイザーにも参加していただいて、
充実したプログラムとなった「水辺のまちづくりワーキング」。
個性の異なる3つのアイデアが生まれました。

アドバイザーからのメッセージ



まちづくりのスペシャリスト

横総合計画事務所
中村 周 さん



生成AI教育のエキスパート

新渡戸文化中学校・高等学校
情報科 教諭
勝田 浩次 さん

「実際に歩くことで、皆さんのまちへの解像度が高まったのを感じました。AIを補助的なツールとして思考を視覚化し、言語とイメージを用いてチーム内で意見をぶつ合うことでアイデアが加速し、1人では到達できない未来図が描けたのではないのでしょうか。このプロセスは、小さなまちづくり体験そのものだったように思います」

「AIを活用して“まちの未来”を具体化し、試行錯誤しながらアイデアを深めた点が素晴らしい取組です。思考を広げ、多角的な視点を得るためのAI活用スキルは、今後も活きる重要な能力。同時に、生成された表現の妥当性や根拠を問い直すリテラシーも欠かせません。技術を主体的に使いこなす姿勢を、これからも大事にしてください」

MISSION 汚名返上を果たせ

チーム Canademy メンバー 土井、岡谷、千葉、吉田



COMMENT

ボラからすみに着目し、水質改善から地域ブランドを育てるストーリーが素晴らしい。地域の歴史と環境課題をポジティブな価値に転換する視点は、まちづくりの本質を捉えた提案だと思います(中村) 水質悪化の原因究明から改善までのアイデアが秀逸です。「からすみを食べる」という共通の目標ができると、取り組んでみたくありません。私の「初からすみ」は、芝浦産を待ちたいと思います!(勝田)

運河を中心に まちを活性化& ボラを芝浦名物に!

人通りが少なく、ときに臭いも気になる運河。その水中にはボラが息しています。江戸時代にはおいしい高級魚だったボラですが、水質の良くない環境で育ったものは味が悪く、敬遠されがちな存在です。この現状を大逆転へと導く4つのステップを提案します!

STEP 1 運河をきれいにする

▶ 水質悪化の原因

- 生活排水が流入する
- 植物プランクトンが増加。それが分解され、底にたまる窒素や硫化物などが増加し、悪臭の原因となる



対策

富栄養化・低酸素状態を防ぐため、水質浄化能力を持つ植物を植える。例えば葦(あし)など

STEP 2 生態系が豊かになる

▶ 運河の環境改善による効果

- 生物多様性の回復、向上
生物の生息環境が改善され、水生昆虫、鳥、魚などが増加する
- 長期的な運河環境の安定
酸素不足、河底の土壌の質が向上し、生態系・食物連鎖の基盤が強化される



結果

人間の生活環境が向上するとともに、運河の活用価値が高まる

STEP 3 運河と人々の つながりが強くなる

近隣の住民やワーカーはもちろん、週末に遊びに来る人、海外からの観光客など運河は多くの人に愛されるようになる。

- 水辺を楽しむ
例: 屋形船、カヌー、いかだ、釣り、生き物の観察など

▶ 帰りが散歩道に利用

例: 近隣の小学生、ワーカー、犬を散歩する人など

▶ 産業や商いにつながる

例: 観光地として発展、運河で獲れる食材を使用する飲食店の増加など



STEP 4 新たな産業が生まれる

特に注目したいのが運河に生息しているボラ。ボラといえば、からすみも製造できる。地域の新たな産業に育てられそう!

- ボラをおいしく食べられる = 運河の水質が向上したことを体感できる

▶ ボラやからすみを飲食店で提供する

- ▶ 全国へ流通させ、ローカルブランドとして認知拡大を目指す

- ▶ ボラを獲る・加工するなど、水産業が発展する



高校生が歩いて撮った 芝浦港南地区の現在

未来の姿を描く前に、現在のまちを見つめた高校生たち。まち歩きの際に撮った、お気に入りの1枚を紹介してもらいました。

芝浦の運河をめぐるまち歩きMAP

徒歩ルート
見どころ



- 1 重箱堀から見たまち並み。夕方の空の色と建物のライトのバランスが良いなと思いました。駅から少し離れた、港区の「穴場」のような場所です(千葉)
- 2 Hi-NODEにかかる橋は、夜空と相まって緑色がよく映え、心に強く残りました。橋のライトアップは日や時間によって色が変わるようで、また訪れてみたいです(岡谷)
- 3 船が泊まっている水辺らしい風景。夕方の空の色や建物が水面に反射しているのが美しかったです。芝浦のまちは、高速道路や建物といった人々の生活が想像よりも運河のすぐ近くにあり、少し驚きました(吉田)
- 4 重箱堀近くの信号から撮影。ビル後方の空は曇もあって藤色っぽいけれど、ビルの夕映えは明るい。その対比がきれいでした(土井)

#芝浦好きさんとつながりたい

チーム つながり隊 メンバー 古川、齋藤、下城



あらゆる人が交流できる にぎやかな水上イベントを開催したい

地域住民も来街者も、大人も子どもも、「芝浦好き」の誰もがつながることができる「水が交流の架け橋になるまち」。それを目指し、水上に囲いを設けて金魚すくいイベントを開催します。隣の人と近い距離で楽しめる金魚すくいなら、新たな交流が生まれるきっかけになるはず。会場には提灯を飾り、お祭り気分を盛り上げます。



イメージ画像はチームみんなで複数案を作成した。レインボーブリッジを望む都会の景色と自然の豊かさを感じられる水上で、近隣のワーカーと地域の子どもの交流が生まれるくらい楽しいイベントにしていきたい。

COMMENT

水上で「金魚すくい」をするという発想には驚かされました。水辺を単なる背景ではなく「体験の場」にするアイデアは、ワーカーと子どもたちをつなぐ、芝浦らしい新たな風景を生みそうです(中村) 「水が人を結びつける」というイベントのコンセプトが素敵です。特別感のある金魚すくいは、コミュニケーションを生み出す工夫としてパッチリだと思いました(勝田)

ウォーターフロントミナルト

チーム しずくトリオ メンバー 田口、星、表



エンタメを取り入れた、 新たなまちのかたちを提案します

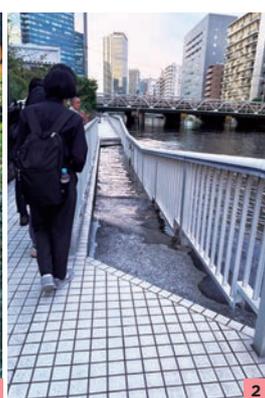
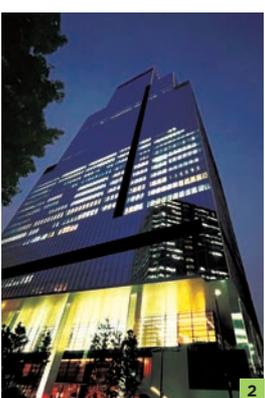
今のまちの課題は「人と水辺の関わりが少ないこと」。そこで、水族館やショッピングモール、遊園地などを整備し、「水辺×エンタメ」を軸としたまちづくりを目指します。新しいまちの名は、水の都「ヴェネツィア」のリアルト橋と港区を掛け合わせた「ウォーターフロントミナルト」。「何度でも訪れたいまち」へと育てていきます。



オフィス街という側面もある芝浦 屋外にテラスを併設したショッピ まちを光で彩る水中トンネルは、
港南地区。ワーカーのためには水 ングモールは、常に水辺が見える 自然の魚を鑑賞できる水族館であ
中の景色を眺めながら仕事ができ 構造になっている。ほかに、まち り、通勤通学など日常利用できる
る居心地のいい空間を用意する。 の新名物となる「食」も開発したい。 道でもある。遠くに遊園地もある。

COMMENT

水中トンネルなど、水との距離を大胆に縮める提案にワクワクしました。「水辺×エンタメ」という直球のアイデアは、訪れる人々の感情を動かし、エリアの可能性を引き出してくれると思います(中村) エンタメとして楽しただけでなく、水を身近に感じるという要素もうまく融合させたアイデアだと思います。こんな水中トンネルを歩いてみたい！ 何度でも足を運んでしまいそうです(勝田)



1 新浜公園は、特殊な機能を備えた公園。遊具を使うと、光ったり、音が鳴ったりする仕掛けがとても面白かったです(下城) 2 特に惹かれた景色は、夜空に向かって高くそびえるBLUE FRONT SHIBAURA®。水と調和しながら、まちの風景を映し出していました(齋藤) 3 芝浦と浜松町駅をつなぐ自由通路。芝浦は、高層ビルがギチギチに立ち並んでいるイメージでしたが、道も広くて快適でした(古川)
※BLUE FRONT SHIBAURAは、野村不動産と東日本旅客鉄道が共同で推進する国家戦略特別区域計画の特定事業。
浜松町ビルディング建替事業として高さ約230mのツインタワーを建設中。TOWER Sは令和7(2025)年2月に竣工。TOWER Nは令和12(2030)年度に竣工予定です。

1 昭和初期に芝浦で栄えた花街の建物を再利用した、伝統文化交流館。まちの歴史を肌で感じることができ、印象的な場所でした(星) 2 満潮の頃に水が上ってくる場所。まさか運河の水に手で触れることができるとは思わなくて、新鮮な驚きがありました(田口) 3 Hi-NODEは建物の前に芝生広場が広がっていて、ベンチなどが設置されていました。海を眺めながら、ゆったりとくつろぐことができる素敵な空間でした(表)

もっと知りたい！

SKDs

未来の担い手 育成プロジェクト

小学校プログラム

小学4年生の子ども発！ まちづくりアイデア大集合！



令和7(2025)年6月、芝浜小学校

「SKDs未来の担い手育成プロジェクト」では、芝浜小と芝浦小の4年生を対象に「まちをみるめ」という授業を実施しています。この授業では車いすを利用する人や日本語がわからない人など、様々な「みるめ(視点)」で観察することで気づきを得ることを目指します。また夏休みにはまちの「好きなところ」や「良くしたいところ」を書き出す宿題を実施。集まった意見は芝浦一丁目地区まちづくり協議会の未来ビジョンにも活かされました。

さらに芝浜小学校では、自然や遊び場、安全、イベントなど、子どもたちが考えたテーマで提案する授業が行われ、まちづくり協議会の大人にも相談しながらアイデアを広げました。

子どもがまちについて提案！

芝浜まちづくりフェス

「Hi-NODE」で開催されるフェスは、今年で3年目。司会や運営、チラシづくりから会場の飾り付けまで、子どもたち自らが企画しています。



令和7(2025)年3月、会場の様子

会場の「Hi-NODE」は、東京港に面した複合施設。船客待合所やレストラン、芝生広場などがあります。フェス当日は、保護者など多くの人が訪れました。



令和6(2024)年3月、会場の様子

▼絵が得意な子はレストランで渡す芝浦らしい景色の塗り絵を制作。実際に絵ハガキとしてお店で配られました。



▲▼デザートメニューで抹茶のプリンや海をイメージしたようかんを考案したチーム。レストラン自慢のハンバーガーのおいしさを伝えるポスターと模型を制作し、レストランで展示されました。



◀“海辺らしい外観”を提案したチームは、タルの上に船のフィギュアを置き、倉庫の雰囲気を出し、季節の花を植えることも提案しました。



発行日：令和8(2026)年3月18日
発行：港区
企画：港区芝浦港南地区総合支所 協働推進課
制作：一般社団法人芝浦エリアマネジメント

協力：東京科学大学附属科学技術高等学校、
芝浦一丁目地区まちづくり協議会、野村不動産株式会社、
株式会社榎総合計画事務所、港区立伝統文化交流館、
一般社団法人シンク・ジ・アース